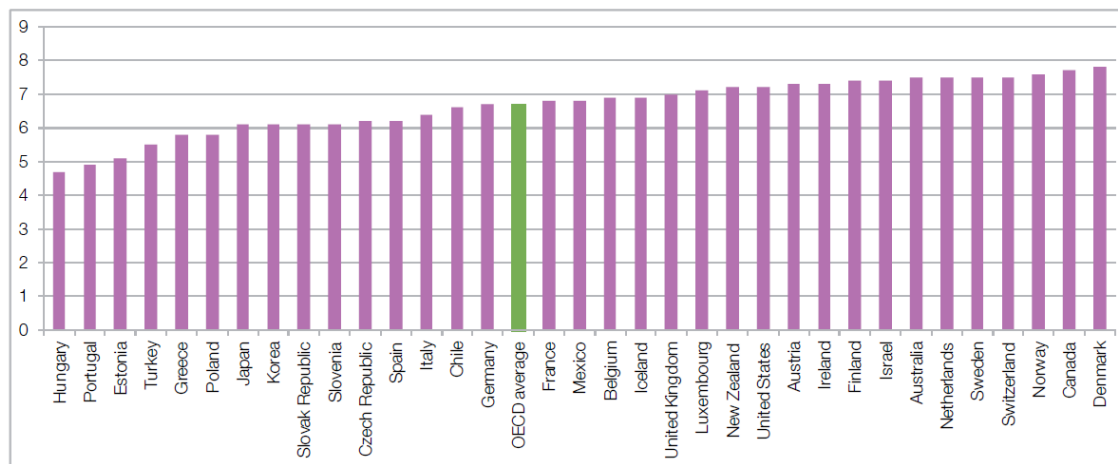


図2 生活満足度

生活満足度の平均的自己評価(10段階) 2010年または入手可能な最新のもの*



*Estonia: 2009, Iceland: 2008, Israel: 2009, Norway: 2008, Switzerland: 2009
Source: Gallup World Poll

持続可能性

幸福度の将来に亘る持続可能性は、現在世代から将来の世代に移転される主要な経済・社会・環境資産の状況、そしてこれら資産が現在の人々及びその子どもたちのニーズに合致するかどうかを見ることによって評価できる。OECDは、下記のイニシアチブの中で、経済・社会・環境の持続可能性の幅広い概念を、より正確に捉えるための作業を行っている。

重要な天然資源のモニタリング

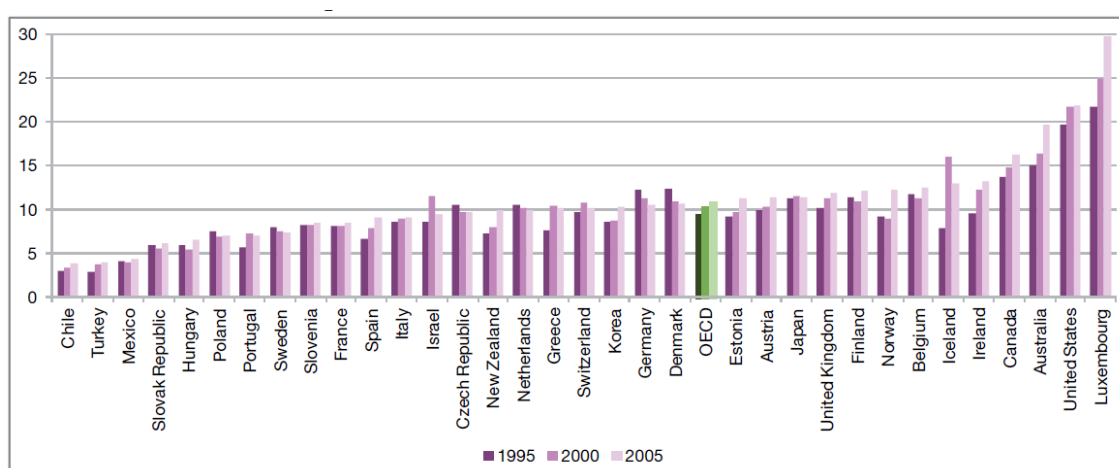
社会的資産のうち非常に重要なものに天然資源がある。OECDは、天然資源の(量的及び質的)ストックをモニターすることに加えて、多様な天然資源の生産性について評価する指標を開発中であるが、これはグリーン成長指標(Green Growth Indicators: GGI)の開発作業の一環として行われている。このイニシアチブは、経済面の生産が利用可能な天然資源のストックに与える影響について分析することも目標としている。

消費に組み込まれた炭素排出量の推計

二酸化炭素の排出量は、国が何を生産しているかに基づいて計測するのが典型的なやり方であるが、その生産物の消費はしばしば別の場所で行われる。専ら国境内での生産に焦点を当てた計測方法は、従って、この構図の一部を明らかにするに過ぎない。例えば、ある

国がオフショア生産を増加させ、あるいは輸入品比率を上げることによって排出量を減少させる場合も、持続可能性について誤解を招く構図を示す可能性がある。他の条件を等しくした上で、財またはサービスを生産する際に排出されるすべての二酸化炭素の量を消費ベースで測定すれば、生産地を変えるようなことから影響を受けずに、特にグローバルな文脈において、より広い視点から持続可能性を測定する方法となる。このプロジェクトの目的は、生産に基づいた従来の測定方法を補完するものとして、消費を反映した二酸化炭素排出量の国別推計値を導き出すことである。このプロジェクトはまた、GGI 開発作業の一部でもある。図 3 は消費に基づいた一人あたり二酸化炭素放出量の推計値である。

図 3 消費に起因する一人あたり二酸化炭素排出量(一人あたりトン)



Source: OECD, Input-output database; OECD, STAN Bilateral Trade database; IEA (for CO₂ emissions)

人的資本の測定

持続可能な幸福度は、ある国が有する全ての資源量の変化に直接関係しているが、こうした資源には人的資本(能力、知識、技能のように人々の中にあるストック)といった、市場では取引されないものも含む。OECD は、教育を受けた年数や技能水準といった人的資本に関する既存の指標を補完するため、人的資本を金銭的に推計する方法を開発している。人的資本ストックの金銭的な推計は、物質的な資本ストックとの比較が容易になるという意味で有益である。加えて、こうした推計により、人的資本の金銭的なストックが、時間の経過とともに、どのように変化していくかを評価することも可能となる。それは、教育や技能の水準を高め、それを労働市場で活用するために各国が何をしなければならないかを理解することにもつながる。

普及：より良い暮らしに向けての OECD イニシアチブ

より良い暮らしに向けての OECD イニシアチブは、2011 年 5 月に立ち上げられた。これは

OECD50 周年記念の機会に、「より良い政策、より良い暮らし」というテーマの下、幸福度及び社会進歩の測定方法に関する OECD が行ってきたいいくつかの作業を集約したものである。これには、「あなたのより良い暮らし指標」(www.oecdbetterlifeindex.org)という双方向ツールが含まれており、ユーザーは 11 項目の指標群に基づく 34 か国の幸福度を比較できる。この 11 の項目の指標は本資料 3 ページの図に示されているが、ユーザーは自分が重要と思う項目にウェイトをかけた結果が得られる。また、このイニシアチブには、「あなたのより良い暮らし指標」についての背景説明文書である「OECD 幸福度指標の概要」(www.oecd.org/document/28/0,374,en_2649_201185_47916764_1_1_1_1,00.htm)も含まれている。



これらの指標は、個人及び家計の（インプット(投入)というよりは）アウトカム(達成感)に焦点を当て、また主観的幸福度と客観的幸福度の両者に着目した OECD フレームワークにヒントを得て選択されたものである。上記 11 項目の指標の選択に当たっては、多くの統計学上の基準が考慮された。即ち、妥当性(有効性、深度、政策の妥当性)、高品質データ(国の統計当局及び公的機関に由来する指標)、OECD 各国との比較可能性などである。

より包括的な出版物である“*How's Life?*”が 2011 年 10 月に公表された。これは、個人や家計の幸福度指標を OECD 加盟国及びいくつかの非 OECD 加盟国から広範に収集し分析したものである。また、多くの項目における不平等さに関する情報を提供するとともに、持続可能性に関する指標もいくつか選んで提供している。

より良い暮らしに向けての OECD イニシアチブ：www.oecd.org/betterlifeinitiative

主要行事

OECD は、地域コンファレンスや「統計、知識及び政策に」に関する OECD 世界フォーラムを通じて、幸福度や社会進歩の測定方法に関する対話を継続している。これらの会合は、現在行われている幸福度と社会進歩の測定方法に関する検討を深化させること、各国が主

要政策課題に対処するために、その測定及び分析方法の妥当性を高めること、そして今後の作業のための枠組みを確立するといった具体的成果を得ることを目的としている。

地域コンファレンス

第4回 OECD 世界フォーラムに向けて、いくつかの地域コンファレンスが開催される。これら一連の会議は、各国統計当局及び各地域で主導的な役割を果たしている国または地域の機関と共催で、OECD 開発センターと PARIS21 (21 世紀における開発のための統計パートナーシップ)から協力を得て開催する。第1回目の地域コンファレンスは、ラテンアメリカ地域(メキシコシティ、2011 年 5 月)で開催された。引き続きアジア(東京、2011 年 12 月)、アフリカ及びヨーロッパでの地域コンファレンスの準備が行われている。

「統計、知識、及び政策」に関する OECD 世界フォーラム

「統計、知識、及び政策」に関する OECD 世界フォーラムには、政策責任者、政治家、社会的リーダー、統計関係者及び学識経験者が一堂に会し、社会進歩を測定し促進するにはどうするのが最善かにつき議論する。「統計、知識及び政策」に関する第4回 OECD 世界フォーラムは、2012 年 10 月にインドのニューデリーで開催される予定である。過去の OECD 世界フォーラムは、パレルモ(2004 年)、イスタンブール(2007 年)、釜山(2009 年)で開催された。各地域コンファレンスの成果は、ニューデリー世界フォーラムにフィードバックされる。この世界フォーラムでは、OECD、その他国際機関、並びに、異なった地域の国々による社会進歩測定作業から得られた成果や教訓を、フォーラム参加者で共有することがその目標である。また、既存の各国あるいは各地域の統計能力、メカニズム及びツールを前提に、個別の測定方法の改善計画に刺激を与えることも目指している。

関連するイニシアチブ



www.wikiprogress.org



www.wikigender.org



www.wikichild.org

参考文献

- » OECD (2011) Compendium of OECD well-being indicators, www.oecd.org/document/28/0,3746,en_2649_201185_47916764_1_1_1_1,00.html
- » OECD (2011), Towards Green Growth: Monitoring Progress: OECD Indicators, OECD Green Growth Studies, OECD Publishing, www.oecd.org/document/56/0,3746,en_2649_37425_48033720_1_1_1_37425,00.html
- » Boarini R., G. Cohen, V. Denis and N. Ruiz(2011) “Designing Your Better Life Index: methodology and results”, OECD Statistics Working Papers, OECD Publishing(forthcoming)
- » Boarini R., M. Comola and C. Smith (2011) “The determinants of subjective well-being in OECD countries”, OECD Statistics Working Papers, OECD Publishing (forthcoming)
- » Boarini R., M. Comola and C. Smith (2011) “Well-being patterns around the world: new evidence from the Gallup World Poll”, OECD Statistics Working Papers, OECD Publishing (forthcoming)
- » Liu G. (2011) “Measuring the stock of human capital for comparative analysis: an application of the lifetime income approach to selected countries”, OECD Statistics Working Papers, OECD Publishing (forthcoming)
- » Scrivens K. and C. Smith (2011) “Measuring Vulnerability and Resilience in OECD Countries”, OECD Statistics Working Papers, OECD Publishing (forthcoming)
- » Ahmad N. (2011) “Embodied carbon dioxide emissions: domestic consumption and trade”, OECD Statistics Working Papers, OECD Publishing (forthcoming)
- » Johnstone N. (2011) “Individual and Contextual Determinants of the Perception of Air Quality: Evidence based on Micro-Data”, OECD Environment Working Papers, OECD Publishing (forthcoming)
- » Johnstone N. (2011) “Air Quality and Subjective Well-Being: Evidence based on

Micro-Data”, OECD Environment Working Papers, OECD Publishing (forthcoming)

» Trewin, D. and J. Hall (2010), “Developing Societal Progress Indicators: A Practical Guide”, OECD Statistics Working Papers, 2010/06, OECD Publishing.

<http://dx.doi.org/10.1787/5kghzxp6k7g0-en>

» Hall, J., E. Giovannini, A. Morrone and G. Ranuzzi (2010), “A Framework to Measure the Progress of Societies”, OECD Statistics Working Papers, 2010/05, OECD Publishing.

<http://dx.doi.org/10.1787/5km4k7mnrkzw-en>

Measuring Well-being and Progress

The brochure is published by the OECD Statistics Directorate. It can be downloaded from the OECD website at www.oecd.org/measuringprogress

Editor in chief: Marco Mira d’Ercole
Editorial team: Romina Boarini, Guillaume Cohen, Martine Zaïda
Design and technical: Sonia Primot

For further information contact progress@oecd.org